

〈教育ノート〉

養護教諭養成課程における効果的な看護臨床実習の検討

毛利 春美*, 大西 宏昭**, 鍵岡 正俊**
石丸 真平**, 尾崎 泰子***, 久保 加代子****

A study on the effective nursing clinical practicum in Yogo teacher training course

Harumi Mouri, Hiroaki Onishi, Masatoshi Kagioka,
Shimpei Ishimaru, Yasuko Ozaki and Kayoko Kubo

Key words : 看護臨床実習 養護教諭 実習評価 自己評価

I はじめに

養護教諭の免許状授与に必要な修得科目として看護学がある。これは、「教育職員免許法施行規則」第9条の養護に関する科目の最低修得単位数「看護学（臨床実習及び救急処置を含む）10単位として、必修科目である。養護教諭は、「看護・臨床医学、健康管理、教育の3分野における能力を有する専門職¹⁾」であるとされており、看護・臨床医学の知識は必要である。

本学では、看護学10単位を、看護概論（2単位）、看護技術I（2単位）、II（2単位）、救急処置I（1単位）、看護臨床実習：事前事後指導及び人権教育を含む（3単位）をおいている。この中で、看護臨床実習は、1年次秋学期に事前指導として講義形式の授業と、1年次秋学期終了後に春期休業中を利用した2週間の病院への臨床実習、事後指導として学内で看護臨床実習報告会を実施している。また、本学では実習要件として、養護教諭2種免許状および中学校教諭2種免許状（保健）の取得に係る実習内規を設けている。看護臨床実習においては、春学期習得単位である「現代と法（憲法を含む）」「解剖学」「生理学」「学校保健（学校安全を含む）」「養護概論」「救急処置I」「看護概論」「看護技術I」の科目（8科目）のうち7科目以上、単位履修していることが実習要件となっている。

本学における看護臨床実習は、学生にとって、初めての学外実習であるとともに、2年次4月中旬から実施さ

れる養護実習の前にあるため、学生にとっての緊張はかなり強い。看護臨床実習の意義については、佐藤らは「実習の成果として、第一に学習意欲の高揚、第二は職業意識の醸成である²⁾」と述べている。このように学生は、看護臨床実習を経て、新たに自己の成長を実感するのだが、看護臨床実習に躓けば、学習意欲の低下とともに、養護実習にも心理的に大きな影響を及ぼすことになる。そこで、実習の事前準備や事後指導が重要な意味を持つと考えられる。

また病院の事情として診療科目により、実習内容にも違いが出ることがある。本学の実習病院でも、すべての病院に小児科や産科はなく、学ばせたい内容がすべて網羅できているとは限らない。そのため、実習計画は各病院にゆだねている現状がある。しかし受け入れ病院としては「何を教えたらいいかかわからない³⁾」と戸惑いも多く、本学実習病院の実習指導者からも実習調整の際、よく聞く言葉でもある。

このように、養護教諭養成における看護臨床実習の内容や在り方は、大学や短期大学の裁量に任されており、実習による課題や現状報告が多々ある。また実習の意義・有用性や実習レポートの内容分析など、学生が何を学んだかという視点で語られている文献が多い。

そこで、今回は学生の実習導入が円滑かつ、効果的に実習できるために、また実習指導者も効果的な指導を実施するために、事前・事後指導、実習病院との調整について教育方法と内容を整理した。また、短期大学養護教

受付日 2018. 5. 25 / 掲載決定日 2018. 9. 7

* 関西女子短期大学 講師

** 関西女子短期大学 教授

*** 元関西女子短期大学 准教授

**** 関西女子短期大学 准教授

論養成における看護臨床実習を効果的な実習にするため、実習評価、自己評価から現状を分析し考察した。

II 本学における看護臨床実習の実際

1. 看護臨床実習の目標、目的

本学は、建学の精神「感恩」にのっとり、高い志と教育愛に貫かれ、子ども達の健やかな心身の育成を通して、社会と学校教育の発展に貢献する、優しさと実践力を備えた養護教諭の養成を目的としている。それをうけ、学科の教育目標は

- (1) 学校教員としての幅広い知識と教養を身につけ、職業観・勤労観を養う。
- (2) 養護教諭として求められる専門的知識と活用する技術、役割達成の技能を養う。
- (3) 心身の健康課題の解決に向けて、ネットワークングできる総合的な能力を養う。
- (4) 学校保健活動の推進に向けて、自己教育力・指導力を養う。としている。そこで、看護臨床実習の目的、目標が表 1 の通り定めている。

表 1 本学における看護臨床実習の目的、目標、行動目標

<p>1. 目的 健康推進の実践者として、専門的知識、技術、態度・倫理を個別の対象へ応用・実践する能力を養い、養護教諭として望まれる専門職業人としての資質を培う。</p> <p>2. 目標 1) 養護教諭に必要な知識、技術、態度を統合したうえで、人間の尊厳、生命への畏敬、死生観の理解にもとづいて、看護する心及び健康推進への理解を深める姿勢を養う。 2) 患者・保健医療チームの人々と信頼関係を築けるよう人間的ふれあいを深め、受容・共感・洞察力・感性等養うとともに、自らを客観視し、向上させていく態度を養う。 3) 医療機関において各専門職種役割と機能を学び、健康回復・維持・向上・苦痛緩和のためのケアの実際を学び、養護教諭として健康教育に活用できる力を身につける。</p> <p>3. 行動目標 (1) 病院の概要及び保健医療チームの構成と役割を理解する。 (2) 患者・家族・保健医療チームの人々とコミュニケーションをはかる。 (3) 看護内容・方法を学ぶとともに患者の入院生活を理解する。 (4) 健康障害を抱えている対象及び家族の身体的・精神的・社会的課題を理解する。 (5) 基本的なケアを指導・監督のもとに見学・参加する。 (6) 学校と医療機関の連携について理解する。 (7) 自己の課題を明確化する。</p>
--

2. 実習の展開

看護臨床実習は、1 年次秋学期終了後、2 月中旬から 2 週間の 10 日間、原則 9 時から 17 時（休憩 1 時間を含

む）としている。実習開始時間は実習受け入れ病院の勤務時間と連動し、病院によって臨機応変に対応している。

実習形態は、実習病院の受け入れ状況によって、1 病院 2~6 名で編成し、それぞれ異なる実習病院で実習を行っている。平成 28 年度は 10 病院で実施した。

3. 病院との事前調整

1) 実習内容について

実習要項を用いて、看護部と実習目標、実習計画、学生レディネスに関して調整を行っている。病院における看護臨床実習は、本学から依頼を受けた看護部門が中心となり実習計画案を作成している。また同時に看護部門だけでなく、他各部門の調整も行っている。そのため事前に実習内容についての調整が必要となる。本学科は実習内容として、7 項目を挙げている（表 2）。

表 2 実習内容

<ol style="list-style-type: none"> 1. 病院の概要、専門職種の構成、危機管理 <ol style="list-style-type: none"> 1) 事前オリエンテーション 2) 看護の倫理、患者の権利、インフォームドコンセント 3) 病院の安全対策：事故・災害・震災等の対策 4) 病院における感染防止対策 2. 自己紹介 職員、患者の紹介と自己紹介 3. 自己課題の明確化 4. 看護の内容 <ol style="list-style-type: none"> 1) 申し送り、チームカンファレンス 2) 診療、ケアの見学・観察、健康教育への参加 3) 看護技術への参加 5. 保健医療チームとの連携 6. コミュニケーション・スキル 7. 学生カンファレンス
--

2) 実習計画について

そして、実習計画案（表 3）を提案し、病院の診療科に合わせた内容に調整を依頼している。また実習中必ず実施する内容として、学生の事前訪問日の設定、カンファレンスの協力（日々の学び・指導内容の共有・中間・最終）、実習記録時間の確保（1 時間）、出席表の確認、日々の日誌の確認及び指導（各ファイルを用意、各部門ごとに提出）を依頼している。また、評価表については教員宛に郵送依頼、実習中の事故発生時において等の連絡先の確認を行っている。

本学が提案した実習計画案（表 3）を参考に各病院が、実習内容と他部門と調整し、学生の事前訪問時に合わせて独自の計画を作成し提示している。

表3 実習計画案

		実習場所	主な項目
1日目 (月)	午前	オリエンテーション	医療安全、感染防止等
	午後	〇〇病棟	酸素吸入、ネブライザー、血糖測定、パッチテスト等、医療的ケアについて
2日目 (火)	午前	外来(眼科)	視力、眼底、眼圧等
	午後	糖尿病教室	患者指導の実際
3日目 (水)	午前	外来(外科)	創処置、包帯法、絆創膏等
	午後	地域連携室	保健医療チーム、地域連携
4日目 (木)	午前	外来(小児科)	診察介助、検尿、バイタルサイン等
	午後	乳児検診・予防接種	身長、体重、胸囲、予防接種等
5日目 (金)	午前	外来(整形外科)	骨折、打撲、シーネ固定、ギブス固定、ギブスカット、包帯法など
	午後	手術室・中材	清潔区域の管理、衛生材料、機器の取り扱い等
6日目 (月)	午前	〇〇病棟	入院指導の見学、看護記録、感染防止策、バイタルサイン、医療機器モニター等
	午後	薬剤科	調剤、服薬指導、薬剤の取り扱い(エビペン、インスリン製剤など)
7日目 (火)	午前	外来(総合診療部)	診察介助、検尿、バイタルサイン等
	午後	検査室	検体の取り扱い
8日目 (水)	午前	栄養科	治療食、アレルギー食、配膳、食事形態等
	午後	リハビリ室	リハビリテーション、ホットパック、牽引、福祉機器等、保健医療チーム連携
9日目 (木)	午前	外来(小児科)	診察介助、検尿、バイタルサイン等
	午後	□□病棟	看護技術見学、コミュニケーションなど
10日目 (金)	午前	放射線科・内視鏡室	CT、MRI、X-P、内視鏡等
	午後	カンファレンス	実習のまとめ、学んだこと

3) 実習経験録について

本学科が希望する経験項目として一覧を作成し提示している。日常生活援助技術、診療補助技術、応急手当、救命処置、治療検査に関する技術と多岐にわたる(表

4)。学生は、夏休みの夏季休業中に項目について調べレポート提出をさせている。このレポートは、実習期間中は持参し、評価対象としている。

表4 実習経験項目

項目	チェック欄	項目	チェック欄	項目	チェック欄	項目	チェック欄
基本的看護		カンファレンスへの参加		処置・診療介助		他実習場所	
ベッドメイキング		感染防止対策について学ぶ		診察・検診介助		臨床検査室	
寝衣交換		観察・計測及び諸検査の介助		褥瘡などの創処置		救急処置室	
シーツ交換		バイタルサイン		洗眼		手術室	
病床整理整頓		モニターの読み方		各種包帯法		分娩室・陣痛室	
洗面介助		身長		絆創膏		人工透析室	
洗髪介助		体重		シーネ固定		集中治療室	
結髪介助		胸囲		ギブス固定		NICU(新生児集中治療室)	
口腔清潔の介助		座高		ギブスカット		プレイルーム	
義歯の手入れ		検尿		予防接種		内視鏡検査室	
食事介助		パッチテスト		持続点滴(DIV)		放射線科	
配膳の方法		視力		中心静脈栄養(IVH)		療養指導室	
下膳の方法		眼底		輸血		医療相談室	
経管栄養の介助		眼圧		酸素吸入		看護相談室	
与薬介助		聴力		胃洗浄		訪問看護室	
全身清拭の介助		肺活量		火傷		医事部	

部分清拭の介助	心電図	骨折	薬局
入浴介助	脳波	打撲	栄養課
沐浴介助	X-P	超音波ネブライザー	中央監視室
部分浴介助	内視鏡	ホットパック	医療廃棄物処理室
排泄介助	超音波	牽引	地域連携室
移動介助	ペースメーカー装着者	低周波治療	患者情報
安楽の介助	血糖測定	救急救命処置	安全対策
体位変換の介助	CT	死後の処置	緊急非常時の対応
タッピングの介助	MRI	人工透析・CAPD	防災と避難救助の方法
電法の介助	消毒・滅菌	インスリン注射	
入院・退院指導の見学	衛生材料滅菌・消毒法	エピペン注射	
看護記録の方法を学ぶ	衛生材料作成・保管方法	抜糸	
交代時の申し送り参加	ディスプレイの取り扱い	吸引	

*見学項目に○、実施項目に△をつける。

4) 学生事前訪問時の調整内容

実習内容(表2)の事前オリエンテーションのことをさす。これは、実習グループリーダーが病院へ直接連絡し、看護部長、副看護部長、実習担当看護師と事前訪問の日程を調整する。学生が、実習前に訪問し、実習初日の集合場所、実習開始時間と終了時間、休憩時間、休憩場所、更衣室、食事場所、売店利用の有無、管理部門等の出入りについて、その他注意事項等について確認することになっていることを事前に看護部門と調整している。

4. 学生への事前事後の学習およびオリエンテーション

(1) 事前指導

看護臨床実習の担当教員が行う実習要項に基づいた事前指導である(表5)。実習要項に基づいた説明だけでなく、学生支援センターと共同でビューティーアップセミナーや多様な価値観に触れることを目的とした学内講

表5 看護臨床実習事前指導内容

1	ガイダンス・実習目的・目標・感染対策
2	病院の概要と保健医療チーム
3	看護の倫理
4	看護実践における問題解決の思考過程
5	実習における観察・記録、連絡・報告について
6	看護行為に共通する技術：コミュニケーション
7	予防接種と抗体検査
8	実習目標の立て方・実習記録物について
9	実習の心得
10	LGBT 研修会参加
11	ふさわしい身だしなみの確認
12	患者さんとのコミュニケーション
13	2年生による実習体験発表・質問等
14	必要書類と準備状況
15	実習終了後看護臨床実習報告会の説明 上級救命講習の説明(柏原羽曳野藤井寺消防本部主催)

演会に参加をしている。また関西福祉科学大学附属総合リハビリテーション診療所と連携して、抗体検査を実施し予防接種の指導を行っている。実習前には、地域の上級救命講習へ参加し救命処置、応急手当の実技習得を目指している。

(2) 事後指導

実習終了後は、看護臨床実習報告会の実施と「私の看護観」をレポート課題として提出している。看護臨床実習報告会では各病院グループに分かれて発表する。内容は、①病院の概要 ②感染対策 ③チーム医療、連携について ④コミュニケーション ⑤人間の尊厳・生命への畏敬・死生観に関わる内容 ⑥養護教諭として活かしていくの以上6項目で、事前にグループで話し合いの時間を設け、学びの共有を行っている。

Ⅲ 平成 28 年度 自己評価・ 実習指導者評価についての考察

1. 対象

平成 28 年度看護臨床実習科目を履修した 35 名中、提出期限にそろった 33 名を対象とし、自己評価、実習指導者による看護臨床実習評価表の分析を行った。

2. 評価方法

学生が記載する自己評価表の評価理由、実習指導者による看護臨床実習評価表を用いて実施した。

自己評価項目は①実習の目的・目標を明確にして臨んだ ②実習で計画された内容を理解する努力(予習復習)をした ③学習の要点、重要事項は理解できた ④遅刻・欠席をせず実習を最後までやりとげた ⑤職員に対する態度や言葉づかいは礼儀正しくできた ⑥患者・家族に対する態度や言葉づかいは礼儀正しくできた ⑦必要な相談、報告、連絡ができた(病院指導者・担当教

員・実習同僚) ⑧実習着、靴、髪、手指、爪などの清潔を心がけた ⑨今後の学習課題や自己課題を見出した ⑩健康生活に関する自己管理ができたの10項目からなり、実習最終日に日誌と一緒に提出したものである。評価の方法は、5：十分、4：やや十分、3：指導されたことができる、2：やや不十分、1：不十分の5段階で評価した。

指導者による評価項目は、自己評価項目⑩を除いた9項目からなり、3：優れている、2：指導されたことができる、1：不十分の3段階で評価を依頼した。

3. 結果と考察

1) 自己評価と指導者評価

自己評価の結果を図1に、指導者の評価を図2に示す。自己評価の評価を3段階法に変換したものが図3である。図3は、自己評価の「十分・やや十分」、「指導されたことができる」「やや不十分・不十分」の3つのまとまりにし、指導者の評価3段階法と比較した。

自己評価は4段階法、指導者評価は3段階法ではあるが、「指導されたらできる」に着眼すると、自己評価と指導者評価が必ずしも一致していないことがわかる。

「②実習で計画された内容を理解する努力(予習復習)をした」の認識に学生と指導者に差が生じている。学生は「十分・やや十分」17人(51.5%)、指導者は、「優れている」が9人(27.3%)で、また、指導者評価では「指導されたらできる」が24人(72.7%)であるが、学生評価によると14人(42.4%)であった。ここから言えるのは、指導者の多くは、指導の結果で学ぶ内容を理解し動機づけができたと思っているが、学生の多くは、自らが気づいて学べていると考えているのではないかといえる。

「③学習の要点、重要事項は理解できた」の項目では指導者評価では「優れている」が13人(39.4%)、自己評価では「十分・やや十分」の人数を合算すると27人(81.8%)と高くなっている。「指導されたらできる」は指導者評価では20人(60.6%)であるが、自己評価では6人(18.2%)となっている。このことから、指導者は指導できたから、理解につながったと思っているが、学生は、自らの力で理解できたと考えていると思われる。

「⑨今後の学習課題や自己課題を見出した」の項目では、指導者評価は「優れている」20人(60.6%)、自己評価は「十分・やや十分」を合算したら29人(87.9%)、「指導されたらできる」指導者評価が13人(39.4%)、自己評価4人(12.1%)となった。指導者は39.4%が指導の結果課題を見出すことができたと考えているが、学生は87.9%が自らの課題を自身で見出すことができたと考えていることが分かった。

以上のことから、臨床指導者は「学生にかかわり、指導したから理解につながった」と考えているが、学生は、自らの力で理解につなげることができたと考えていることがわかった。

また、実習指導者は、学生のできないに着目した指導ではなく、学生の疑問やできないところに気づきを引き出すかかわりをしてくれたのではないかと推察される。このことから、学生は、実習に対して自ら学んだという達成感につながっているのではないかと考えられる。

この自己評価の結果から、学生は今回の実習では、十分、やや十分、指導されたことができるが90%以上であることから、実習に対する達成度は高いことがわかる。また、指導者も指導したことで学生が変化している状況を確認した結果となった。

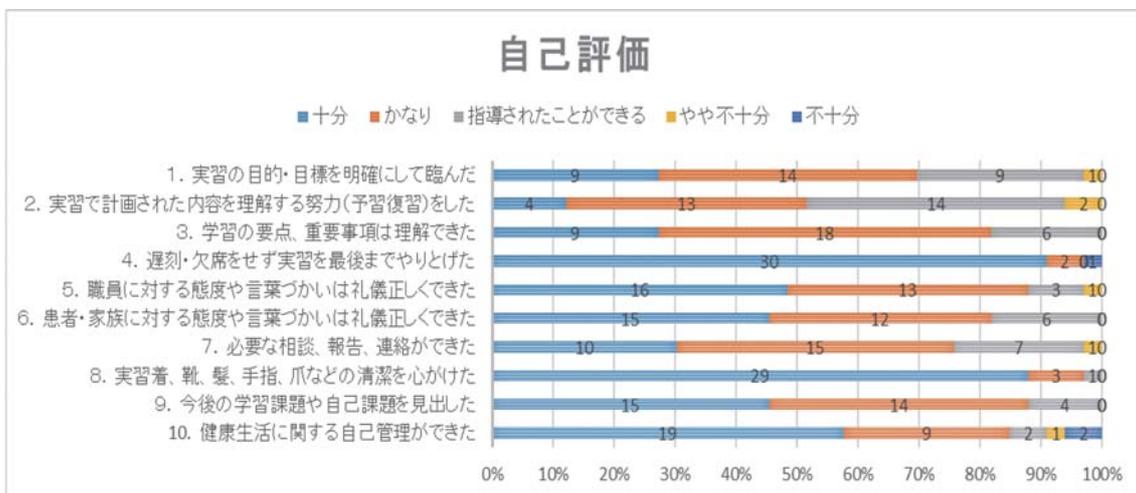


図1 学生による自己評価 (n=33人)

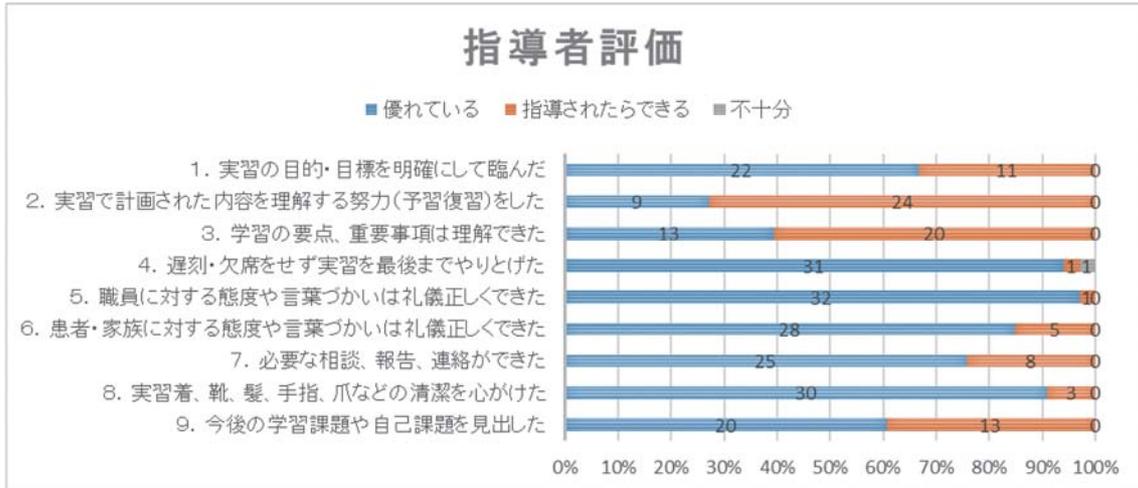


図 2 実習指導者による評価 (n=33 人)

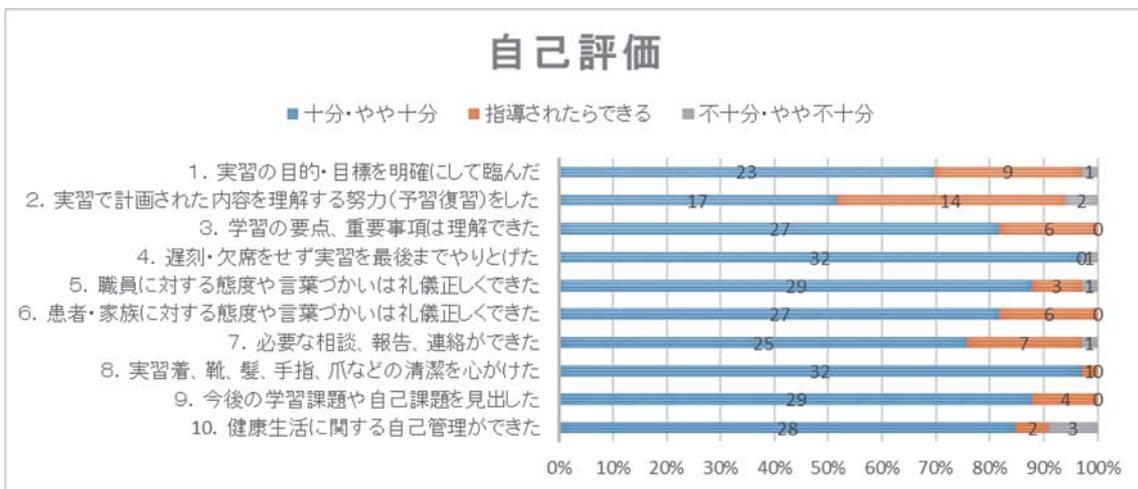


図 3 自己評価を 3 段階法に調整 (n=33 人)

2) 自己評価と指導者評価から学生の傾向

図 4 から図 12 は評価項目ごとに学生と指導者の点数の関係を表したものである。縦軸を学生評価点、横軸を指導者評価点として散布図を作成した。

横軸の指導者評価「2 指導されたらできる」に着目すると、学生自己評価が 2 から 5 と分散されている。特に、「①実習の目的・目標を明確にして臨んだ」「②実習で計画された内容を理解する努力(予習復習)をした」「③学習の要点、重要事項は理解できた」「⑥患者・家族に対する態度や言葉づかいは礼儀正しくできた」「⑦必要な相談、報告、連絡ができた(病院指導者・担当教員・実習同僚)」「⑧実習着、靴、髪、手指、爪などの清潔を心がけた」「⑨今後の学習課題や自己課題を見出した」の学生の評価の分散が大きい。これは、自己評価と他者評価が一致していないことが言える。このことから、実習目標の 2) の「自らを客観視する」という点において課題が残る結果となった。

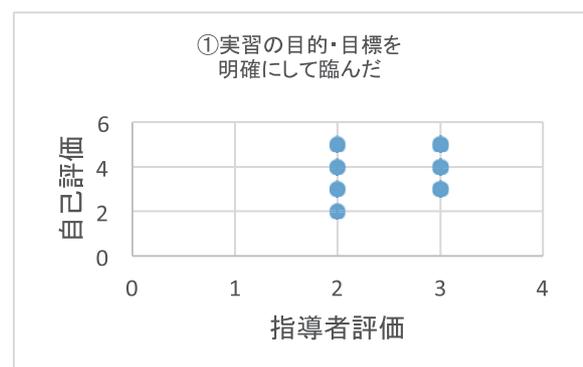


図 4

「④遅刻欠席をせず実習をやり遂げた」に関しては、自己評価、実習指導者評価とほぼ一致しており、健康に関する認識は共通していたといえる。

「⑤職員に対する態度や言葉づかいは礼儀正しくできた」に関して、実習指導者はできていると思っているが、学生は「十分」から「やや不十分」と評価に幅が出

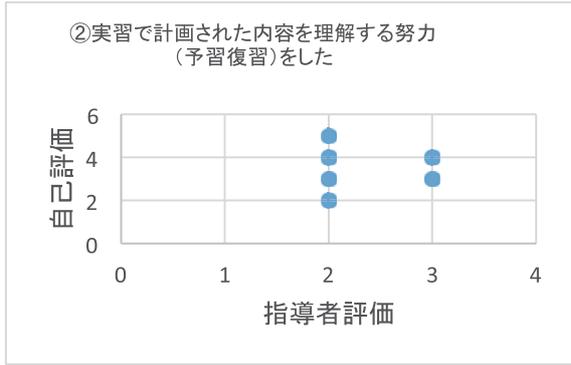


図 5

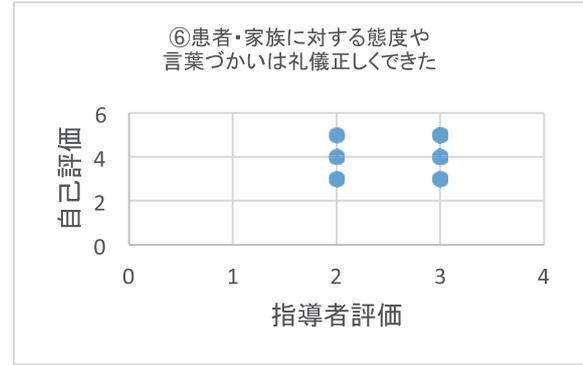


図 9

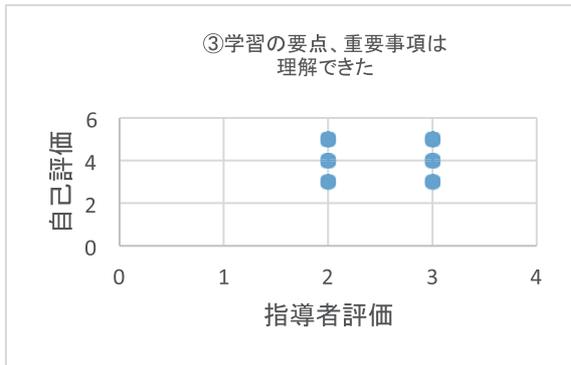


図 6

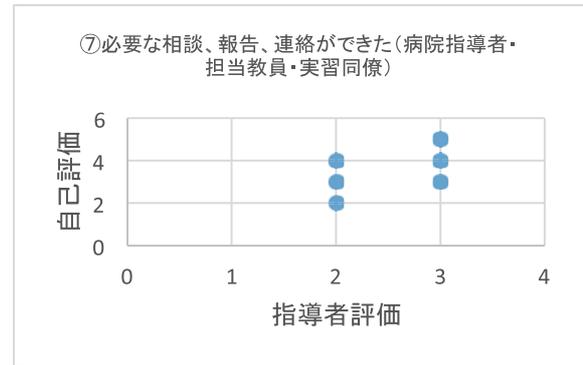


図 10

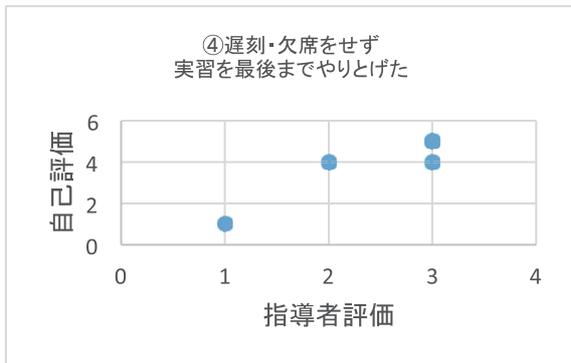


図 7

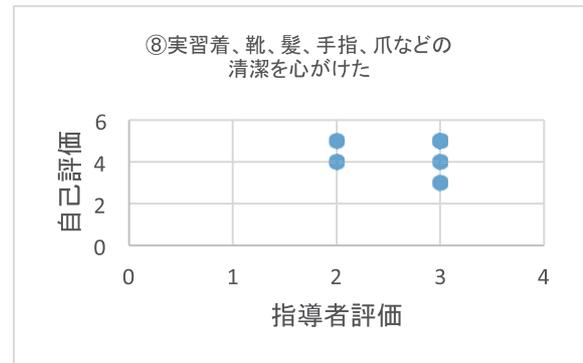


図 11

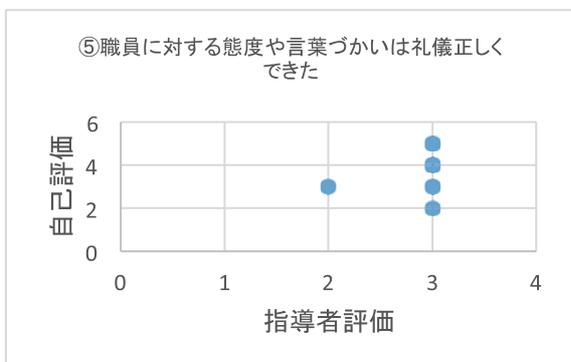


図 8

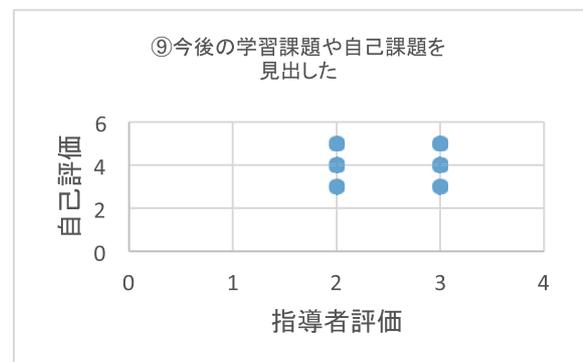


図 12

た結果となった。これは、学生にとっては初めての臨床であり、自身の立ち居振る舞いに自信がなかったことから評価に差が出たのではないかと考えられる。

IV おわりに

今回は、平成 28 年度看護臨床実習の、事前事後指導、病院における実習調整の内容と教育方法を整理し、指導者評価、自己評価から学生の実習の達成感や課題を明らかにした。

実習評価全体からは学生は自ら気づき学びにつながり、実習が充実していたと感じている学生が多いことが明らかになったものの、各評価別に自己評価と指導者評価を分析したところ、自己評価と他者評価が一致しないことが浮き彫りになった。これは今後の学生指導において課題が残る結果となった。

引き続き学生の達成感を高められるような実習計画、実習調整を行っていき、実習指導者と連携を強めていきたい。今後効果的な看護臨床実習を展開するにあたり、学生が自身を客観的にとらえられることができるようなかわり方や指導方法を構築していきたい。

引用文献

- 1) 郷木義子 森宏樹：養護教諭養成における看護臨床実習の現状と課題 (1)「就実教育実践研究」第 9 巻、P 163-171、2016
- 2) 佐藤秀子 大川尚子 森川英子 井澤昌子：養護教諭養成課程における看護臨床実習の意義、関西女子短期大学紀

要、第 17、P 49-54、2007

- 3) 松浦栄治、天野敦子 堀内久美子：養護教諭養成課程の学外実習に関する研究、第 1 報 臨床実習の現状分析、愛知教育大学教科教育センター研究報告 第 12 号 P 37-45、1988

参考文献

- ・石川拓次 永石喜代子 山本佳奈実：看護学実習における経験型実習教育の総括：9 年間の経過から、鈴鹿短期大学紀要 第 33 巻、P 33-42、2013
- ・大谷尚子 砂村京子 中川裕子 笹川まゆみ：養護教諭養成教育における「臨床実習」の意義：学生が学んできたことから考える、茨城大学教育学紀要 (教育科学) 56、P 329-37、2007
- ・橋弥あかね 梶村郁子：養護教諭養成課程における臨床実習の学びの分析、大阪教育大学紀要 第Ⅲ部門 第 61 巻 第 1 号、p 55-62、2012
- ・橋弥あかね 竹下裕子 平井美幸 梶村郁子：養護教諭養成課程における臨床実習の感想文の内容分析、大阪教育大学紀要 第Ⅲ部門 第 63 巻 第 2 号、P 31-38、2015
- ・橋弥あかね 梶村郁子：養護教諭養成課程における臨床実習の感想文の分析、大阪教育大学紀要 第Ⅲ部門 第 62 巻 第 2 号、P 23-30、2014
- ・宮城由美子 大庭優子 野村弓：養護教育科における臨床実習－その問題点と課題－、九州女子大学紀要 第 40 巻 2 号、P 71-83、
- ・満田タツ江 今村朋代：臨床看護実習で学ぶ養護教諭に必要な能力－学習程度に着目して－、鹿児島女子短期大学紀要 第 44 号、P 183-188、2009